

説明文の 教材研究

教材研究では、
どのような方法で、
何に注目すればよいのでしょうか。
筑波大学附属小学校の
青山由紀先生による
「すがたをかえる大豆」(三年下)
の教材研究と授業レポート、
そして、横浜国立大学の
高木まさき先生からのお話をもとに、
説明文の教材研究で重要なこと、
その意義について考えます。

はじめ に

教材研究の進め方、始める前に押さえておくべきことなどについて、
青山先生にお話を伺いました。

1 「教材分析」と「授業化」

教材研究と聞くと、なんとなく「教材を研究する」ことがイメージされます。教材についての知識・理解を深める。これも、もちろん教材研究に含まれます。でも、それが教材研究の全てではないでしょう。

私は、教材研究には、二つのステップがあると考えています。一つは、教材を読み解き、その内容や意図について理解する「教材分析」のステップ。そしてもう一つは、それをもとにしながら子どもの実態に合わせて授業を組み立てる「授業化」のステップです。このように分けて考えると、それぞれの段階ですべきことがはっきりしてきます。

今回は、この考え方に沿って、「教材分析」↓「授業化」というステップを踏みながら、説明的な文章「すがたをかえる大豆」(三年下)の教材研究に取り組んでみたいと思います。

2 教材分析をする前に

「では早速、教材分析へ」と言いたいところですが、その前に、ここで押さえるべき指導事項や学習内容と、教材の位置づけを確認します。このとき、単元冒頭の単元名・リード文が参考になります。

●押さえるべきこと

中学年の「読むこと(説明文)」で主に身につけさせたいのは、「まとまりを捉える」ということ。それをさらに細分化すると、三年では、
・「初め・中・終わり」を捉える。
・中心となる語や文を捉える。
という力をしっかりと身につけさせたいので、そのことを念頭に置いたうえで、教材を読んでいきます。

●教材の位置づけ

「読むこと(説明文)」単元での既習の内容を確認して、本単元で生かし、深められることを明確にします。前の単元の第二教

材「こまを楽しむ」は、

- ・「問い」と「答え」がある。
- ・「中」で事例が列挙されている。
- ・写真と文章が対応している。

という説明文。事例については、他のこまと「曲ごま」「ずぐり」との、質の違いには気づくことができました。そこからの流れを意識して、授業を組み立てます。

加えて、教科書では本教材の後に「食べ物」のひみつを教えます」という「書くこと」の教材が位置づけられています。より効果的に学習できるよう、今回はこれと本教材を一単元として構成し、「食材について説明する文章を書く」という言語活動のもと、本教材を読むことにします。



あおやま ゆき
青山由紀

東京都生まれ。筑波大学大学院修士課程修了。全国国語授業研究会常任理事。使える授業ベーシック研究会常任理事。著書に『古典が好きになる』(光村図書)、『板書 きれいで読みやすい字を書くコツ』(ナツメ社/樋口咲子共著)など。光村図書小学校『国語』教科書編集委員。

